

# 神小だより

## 第12号



特色ある取組等(神領小学校HP)

### 「残り姿が語るもの」

子供たちが帰った後の教室に入ると、その学級の姿がよく分かります。机がきちんとそろい、床にごみ一つ落ちていない教室には、その日一日の積み重ねが静かに表れています。そこに残っているのは、物ではなく、子供たちの心の姿です。

私はこれを「残り姿」と呼んでいます。人は立ち去るとき、自分の生き方をあとに残します。そろえられたトイレのスリッパは、思いやりの残り姿。黙々と取り組んだ清掃後のそれぞれの場所は、自律の残り姿。交わされたあいさつや「ありがとう」の一言は、やさしさの残り姿です。誰かが見ているから整えるのではなく、見ていなくても整えられる姿こそ、本当の力だと思います。学力はテストの点として見えることもあります。しかし、残り姿はすぐには、数字に表れません。目には見えにくい力であるかも知れません。それでも、着実にその子の中に育ち、やがて人間力として大きな力となります。学校が大切にしているのは、学力と共に、人間力の向上です。

学校の歴史・伝統にも残り姿があります。これまでの先輩方が大切にしてきた習慣、思いや願い、伝統は、今の子供たちの姿となって受け継がれています。一人一人の小さな行いが、学校の文化をつくっています。

子供たちが帰った後の1年教室。美しい残り姿です。この姿が、1年間の成長を物語っています。



先日、本校に脈々と受け継がれている伝統文化の「アリス祭り」がありました。保護者の皆様におかれましては、ご多用の中、ご参加くださりありがとうございました。本校の宝である青い目の人形アリスジョンストンもまた、先人の「残り姿」の一つです。海を越えて届けられた友好の証であり、平和への願いを託された存在です。年月を経てもなお大切に守り続けていること自体が、私たち神領小学校の心の在り方を示しています。人形は語りません。しかし、その静かな佇まいは、「いのちを大切にすること」「争わずに心を通わせること」を今も私たちに問いかけています。

アリス人形を守る活動は、大切に保存することだけではありません。そこに込められた願いを受け取り、次の世代へと手渡していく営みです。子供たち一人一人の小さな行いもまた、未来へ残る姿となります。去った後に何が残るか。私たちはどのような学校の姿を未来に残したいのか。アリス人形を見つめるたびに、その問いを胸に刻みながら、今日も子供たちと歩んでいます。

ご家庭でも、お子様の「残り姿」に目を向けていただければ幸いです。脱いだ靴の向き、使った後の机の様子、交わす言葉の温かさ。そこには、お子様の成長が映し出されています。去った後に何が残るか。その積み重ねが、未来をつくと信じています。ご指導、ご支援をお願いいたします。